

令和6年度 第1学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での 達成度
国語	知識及び技能	単元テストの結果、ひらがなの読み書きが概ね対応できている。ひらがなの読み書きを全員に定着させる必要がある。	ノートやワークシートを活用し、文字を書く機会を多く設けて文字の習得を図る。	単元テストの正答率が100%以上の児童を9割にする。	
	思考力、判断力、表現力等	単元テストの結果、「読むこと」「話す・聞く」ことで、問題文読み取り、意味理解をさせる必要がある。	授業中、音読を繰り返す時間確保し、文章の内容理解を図る。 場面に応じた話し方・聞き方を指導する。	単元テストの正答率が90%以上の児童が8割、70%未満の児童0を達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	ひらがなや作文、音読の学習に、どの児童もすすんで取り組むことができている。読むことの学習では、登場人物の気持ちを想像することが難しい児童がいるため、学習意欲を向上させる必要がある。	授業のはじめに、他の児童のノートの記述や活動の様子などを価値付け、学習を共有する。 「行動」や「言葉」など、注目する箇所を指導する。	学習中、学級の児童全員が自分の考えを発表するか、ノートに記述することができる。	
算数	知識及び技能	単元テストの結果、「たし算」「ひき算」ともに概ねできている。「長さ」では、具体物を用いての比較を十分に行わせる必要がある。	指導計画を見直し、習熟の時間を取り、具体物を用いて児童に実際に操作をさせる時間を設ける。 プリントを活用した反復学習を行う。	単元テストの正答率が90%以上の児童が9割、70%未満の児童0を達成する。また年度末のベーシックテストの正答率80%以上の児童が9割を達成する。	
	思考力、判断力、表現力等	単元テストの結果、「たし算」は概ねできている。「ひき算」では、問題の意味を把握し、演算決定を行わせる必要がある。	図やイラスト、具体物などを用いて、問題の内容理解や立式ができるようにする。デジタル教科書を大きく見せ、電子黒板も使用する。教科書やドリルの適用問題が早く終わった児童には、プリント学習を活用して反復学習が行えるようにする。	単元テストの正答率が90%以上の児童が8割、70%未満の児童1割を達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	どの児童も学習に意欲的に取り組むことができた。文章題で立式するのが難しい児童がいるため、学習意欲を向上させる必要がある。	ヒントや具体物の操作、学習支援員の支援などを通して、自分のペースで理解できるようにする。	学習中、学級の児童全員が自分の考えを発表するか、ノートに記述することができる。	

考察		
----	--	--

令和6年度 第2学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での 達成度
国語	知識及び技能	学力テストの結果から、平仮名、片仮名は多くの児童が習得しているが、漢字の読み書きの定着をさらに進める必要がある。	週に一回程度漢字小テストを行い、十分に身に付いていない漢字は、習得するまで繰り返し練習させる。	単元テストの正答率90%を9割の児童が達成する。	
	思考力、判断力、表現力等	学力テストの結果から、「書くこと」「読むこと」で、説明文の内容を的確に捉えさせる必要がある。	授業の中で、文章の構成を意識し、読み解く学習活動を計画的に行う。週に一度日記を書く活動を行い、考えを記述する力を高める。	単元テストの正答率90%を8割の児童が達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	長い文章をたくさん読ませたり、幅広い分野の本を読ませたりする必要がある。	図書の時間に、読み聞かせや読書、音読等を計画的に行い、言葉や文章に親しむ機会を設ける。	9割の児童が物語文や説明文の本を月に3冊以上読んでいる。	
算数	知識及び技能	学力テストの結果から、「水のかさ」や「長さ」などを正確に測らせる必要がある。	デジタル教科書を使用し、分かりやすくする。具体物を操作する活動や数量感覚を養う体験的な活動を計画的に取り入れることで、習得できるようにする。eライブラリを使って、学習の定着を図る。	単元テストの正答率90%を9割の児童が達成する。	
	思考力、判断力、表現力等	学力テストの結果から、文章問題を最後まで読んで解き、解答するために必要な情報の選択を的確にさせる必要がある。	文章問題を扱う際にキーワードとなる言葉に印をつけたり、既習内容を確認したりすることで、正しく読み解くことができるようにする。デジタル教科書を使用して図などに書き表すようにさせる。	単元テストの正答率90%を8割の児童が達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	問題に対し進んで取り組み、問題を解いた後によりよい取り組み方を考えられるようにする。	自力解決を支援するための掲示物・教具を用いた活動を行ったり、考えを共有、付加・修正するための交流活動を行ったりする。	学習感想や自分の意見をノートに書かせる。9割の児童がノートに自分の考えを書く。	

考察		
----	--	--

令和6年度 第3学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での 達成度
国語	知識及び技能	学力テストの結果から、概ね対応できている。一方で、漢字の書きや書き順を定着させていく必要がある。同様に文中の主語と述語を捉えさせていく。	進出漢字の学習の際に、正しい書き順で指導する。週に1回漢字小テストを行い、身に付いていない漢字は習得するまで繰り返し練習させる。主語述語に係る学習を丁寧に行う。	単元テストや学期末の「漢字・言葉」のテストで、90%の児童が90%を達成する。	
	思考力、判断力、表現力等	学力テストの結果から、概ね対応できている。一方で、読んだり聞いたりして内容と合う記述を正しく選び、読み取って記述できるようにする必要がある。	説明的文章の学習で、要点を端的にまとめたり、互いの意見を聞き取り伝え合ったりする学習を随時行う。また、まとめを文章で書く経験を積ませる。	単元テスト等で思考力、判断力、表現力にかかわる正答率90%以上を8割の児童が達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	漢字の学習に好んで取り組む。長文を丁寧に読んだり、思いや考えを文章に書き表したりすることを定着させる必要がある。	見通しをもって学習に取り組めるようにする。スモールステップで学習を進め、子供同士で認め合ったり、常に評価を児童に返すようにしたりする。	授業中の児童の様子、ノートへの記述の様子などを観察する。	
算数	知識及び技能	学力テストの結果から、繰り下がりのあるひき算や単位の換算を定着させる必要がある。図形の弁別を確実にさせる。	既習の四則演算を計画的に復習し、計算の仕方の定着を図る。定義を生かして図形の見取り図を描けるようにする。様々な単位の換算を復習させる。eライブラリを使って、学習の定着を図る。	単元テストや学期末のテストで、正答率90%の児童が90%を達成する。	
	思考力、判断力、表現力等	学力テストの結果から、文章で示された場面を、算数の問題として捉え、減法の式に表し解決できる力を付ける必要がある。	問題に示されている話の場面をしっかりと捉えるために、デジタル教科書を使用して図などに書き表すようにさせる。根拠を明らかにして考え、言葉や式で説明する学習をさせる。	単元テストで正答率90%以上を8割の児童が達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	選択式、短答式の問題には嬉々として取り組んでいる。記述式の問題にも進んで取り組めるようにする。	図や言葉で説明する際、隣の児童と相談する時間を確保し、自信をもって発表できるようにする。場面を図や言葉を使って説明する時間を取り入れる。ペア学習を行い、説明し合う時間を増やす。	授業中の児童の様子、ノートへの記述の様子などを観察する。	

考察		
----	--	--

令和6年度 第4学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での 達成度
国語	知識及び技能	総合学力調査の結果から、漢字の正しい読み書き・語彙が身に付いていない場面が見られる。漢字の正しい読み書き・語彙を身に付け、定着させる必要がある。	漢字の意味や部首、使い方などを説明し、間違いやすい漢字を取り上げる。指書き、ドリル書き込み等を丁寧に行わせることにより、定着につなげる。	2学期末の漢字まとめテストにて、平均75点以上を達成する。	
	思考力、判断力、表現力等	総合学力調査の結果から、文章の読み取りにおいて、登場人物の様子を捉えられるようにする必要がある。	説明文は文章構成の型を丁寧に指導する。物語文では、登場人物の心情や場面の背景を読み取る学習を積み重ね、類型化して身に付けさせる。また、設問に対する答え方を指導する。	単元テスト等で思考力、判断力、表現力が80%以上を8割の児童が達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	自分の苦手な領域の学習において、できるだけ繰り返し取り組めるようにする。	学習の見通しをもたせる。終わっても、更によりよいものを追求させるよう言葉掛けをする。	学習感想や自分の意見をノートに書かせる。9割の児童がノートに自分の考えを書く。	
算数	知識及び技能	総合学力調査の結果から、数直線上に示された分数を読み取ることができるようにする必要がある。	数直線を書いたり説明したりする場面を意図的に設定する。デジタル教科書を使い、電子黒板で詳しく説明する。。eライブラリを使って、学習の定着を図る。	数直線を活用する分数の学習において、8割の児童がテストの知識及び技能の正答率80%以上を達成する。	
	思考力、判断力、表現力等	総合学力調査の結果から、棒グラフの1目盛りの大きさに着目して説明できるようにする力を付ける必要がある。	電子黒板や拡大図を使い、見やすくさせることによって、数値の表す意味や1目盛りの大きさについて説明させる経験を積み重ねる。	8割の児童が、テストの思考力、判断力、表現力において正答率80%以上を達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	総合学力調査の結果から、解決の難しい問題について、諦めずに取り組ませる必要がある。	助言を与えたり、終わった児童がその他の児童に支援する場面を作ったりして、あきらめずに課題に向き合う経験を積ませる。	8割以上の児童が、あきらめずに意欲的に課題解決に向かうよう目指し、ノート記述や授業中の様子を観察する。	

考察	
----	--

令和6年度 第5学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での 達成度
国語	知識及び技能	総合学力調査において、言葉の意味理解や語彙力が求められる問いに関しては、概ね対応できている。一方で、漢字の書き取りが不十分な場面が見られるため、正しい漢字の書き取りを定着させる必要がある。	週に1回程度漢字テストを行い、十分に身に付いていない漢字を取り上げて定着につなげる。	学期末に、現学年、既学年の内容を盛り込んだ漢字テストを行う。 正答率が90%以上の児童が8割を達成する。	
	思考力、判断力、表現力等	総合学力調査において、文章読解について、全体的に見ると概ね対応できている。一方で、説明文の読解力を上げる必要がある。	指導計画の中に、それぞれの段落の意味や相互関係を学習することを位置付ける。 単元テストで問われるような形式の問題を授業内でも取り上げ、慣れさせる。	学期末に、授業では扱っていない文章を盛り込んだテストを行う。正答率が90%以上の児童が8割を達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	授業の様子から、漢字や言葉の学習への興味関心の高さが分かる。物語、説明文に対しての興味関心をもたせる。	文章の読み取り方について、考えたことを児童同士で共有したり、認め合ったりする活動を設ける。多様な読み取り方に触れさせることで、関心を高める。	ノートやワークシート、学習の様子をもとに、児童の関心の高まりを把握する。	
算数	知識及び技能	総合学力調査の結果から、作図の定着に課題が見られたため、作図ができるようにする。	図形の性質に気付かせ、その上で作図の仕方を学習する。獲得した知識を応用発展できるようにする。電子黒板を利用し、描き方を一緒に確かめながら作図させる。	学期末に、既習の図形を作図するテストを行い、定着度合いをみる。その際、全児童の9割が達成する。	
	思考力、判断力、表現力等	問題場面を的確に把握し、文章の正誤判断ができるようにする。	短文形式の問題だけではなく、グラフや文章を相互に関連付けながら解かなければならない問題を取り上げ、その問題形式に慣れさせる。電子黒板を利用する。	学期末に、総合学力調査で行った問題を取り上げ、正答率が90%以上の児童が8割を達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	学習した内容を確実に定着させる必要がある。自信をもって発表したりや問題を解いたりできるようにする。	子供たちに発表させる際に、算数用語の定義を明確にさせながら、発表させる。	・ノートやワークシート、学習の様子をもとに、児童の関心の高まりを把握する。	

考察		
----	--	--

令和6年度 第6学年 授業改善推進プラン

教科	観点	学習状況及び課題 (育成を目指す資質・能力)	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証	2学期末時点での 達成度
国語	知識及び技能	全国学力学習状況調査から、「漢字を文中で正しく使うこと」「主語と述語との関係を捉えること」ができるようにする必要がある。	同音異義語を調べる機会を意図的に増やす。作文や日記指導の際に叙述に即した漢字を使用する指導に重きを置く。	学力テストや単元テストにて、知識及び技能(特に、漢字や言葉の特徴や使い方)に関する問題の正答率が80%以上の児童が8割を達成する。	
	思考力、判断力、表現力等	全国学力学習状況調査から、「目的や意図に応じて集めた材料や情報を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し明確にすること」ができるようにする必要がある。	材料や情報を取り出し、整理しまとめる活動に重点を置いて指導する。伝え合う活動を意図的に増やし、伝えたい内容を明確にする指導を進める。	学力テストや単元テストにて、思考・判断・表現(特に、話すこと、書くこと)に関する問題の正答率が70%以上の児童が8割を達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	問題の解決方法が分からない、解決に向かう手順がうまくいかないとき等、粘り強く考えて問題解決しようとする力を付ける必要がある。	問題解決に向かうためのヒントを提示し、スモールステップを踏ませる。児童各々の努力を捉えて、随時その意欲や頑張りを認め、励ます。	9割以上の児童が、授業中の課題に対する取り組み方や最後まで諦めずに問題を解こうと努力する意欲をもち、ノートへの正確な記述をする。	
算数	知識及び技能	全国学力学習状況調査では、「除数と商の大きさの関係や小数の除法の仕方」をできるようにする必要がある。	個別支援が必要な児童や問題をピックアップし、学力推進向上ティーチャーと連携して指導する。問題の考え方や解法の指導を繰り返す。eライブラリを使って学習の定着を図る。	学力テストや単元テストにて、知識及び技能(特に、数と計算、図形)に関する問題の正答率が75%以上の児童が8割を達成する。	
	思考力、判断力、表現力等	全国学力学習状況調査では、「立式の意味」「速さ等の単位量あたりの大きさ」「立体の面や辺の関係をできるようにする必要がある。	電子黒板を使用し、問題文や図表から得た情報の整理の仕方、数直線を活用して立式する方法を児童に説明させる機会を意図的に増やすとともに、その指導に重点を置く。	学力テストや単元テストにて、思考・判断・表現(特に、数と計算、図形、変化と関係)に関する問題の正答率が75%以上の児童が8割を達成する。	
	学びに向かう力・人間性等	言葉や図、表、式を用いて自分の考えや問題の解法を表現できるようにする必要がある。	数直線を利用した問題の解き方や考え方の指導を繰り返す。問題解決のためのヒントを少しずつ提示する。「できた」ことを大いに認め、自信をもたせる。	9割以上の児童が、授業中の課題に対する取り組み方や最後まで諦めずに問題を解こうと努力する意欲をもち、記述問題に対する答えを記述する。	

考察		
----	--	--